



審査結果報告書

平成 29 年 8 月 31 日

主査 氏名 三枝 信 

副査 氏名 菊池 丈郎 

副査 氏名 井上 優介 

副査 氏名 田邊 聡 

1. 申請者氏名 小泉 周子

2. 論文テーマ : Clinical Implications of Doubling Time of
Gastrointestinal Submucosal Tumors
(消化管粘膜下腫瘍の腫瘍倍加時間の臨床的意義)

3. 論文審査結果 :

消化管粘膜下腫瘍 (SMT) の多くは検診等で偶然に発見されることが多く、また、積極的な治療対象になることは少ない。しかし、GIST (gastrointestinal stromal tumor) は悪性化することがあるため、手術対象となる。本研究は、GIST とその他の SMT 病変での発育速度の相違の解明は治療方針決定に有用と考え、超音波内視鏡 (EUS) の経時的所見を用いて、53 例の消化管 SMT 病変の腫瘍倍加時間 (DT) を算出した。その結果、①疾患別 DT は、GIST : 17.2 ヶ月に対し、平滑筋腫/神経鞘腫/異所性膵/過誤腫/cyst/Brunner 腺腫 : 231.2/104.7/274.9/61.2/49/134.7 ヶ月であった。②GIST のリスク分類別の DT は、超低・低/中間/高リスクで、24/17.1/3.9 ヶ月であった。③GIST は、平滑筋腫 + 神経鞘腫に比べて有意に DT が短く、高リスク GIST は超低・低リスク GIST と比べて有意に DT が短かった。以上の結果から、SMT は病変により DT が異なり、GIST の DT が有意に短いことが確認できた。また、GIST においては悪性度の高いほど DT が有意に短いことも確認できた。さらに、GIST の中リスクや高リスク群の DT は 6 カ月未満のため、2cm 未満の小 SMT でも初期は少なくとも 6 カ月以内のフォローアップが必要と結論付けた。公開審査では、申請者は主論文の内容について約 25 分にわたり詳細な発表を行い、その後の審査員からの多種多様な質問についても適切に答えることができた。審査員は、学位論文の内容の高さ、質疑応答の的確さから、医学博士の学位に十分値する判断した。